

## ○表の見方

### ■学校

NO	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定等		備考
						内容	実施時期	
	〇〇小学校 (〇〇棟)	〇〇市〇町〇〇	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」(2001年版)	① $I_s/I_{s0}=1.1$ $C_{TU} \cdot S_D=0.8$			

建築物の耐震診断を実施した時の診断方法の名称を記入しています。下記の附表一覧をご確認ください。

### 附表

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性 ②		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

### ③ 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性

- ① I : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- ② II : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- ③ III : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※) 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

(※) 備考に記入のない場合は、 $I_{s0}=0.6$ 、 $Z=1.0$ 、 $R_t=1.0$ 、 $G=1.0$ 、 $U=1.0$  とする。

① 「構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」の数値を、附表に照らし合せてご確認ください。  
この場合、結果の $I_s/I_{s0}=1.1$   
 $C_{TU} \cdot S_D=0.8$ を、②附表に照らし合わせると、「 $1.0 \leq 1.1$  かつ  $0.3 \leq 0.8$ 」となり、区分「III」です。  
※ Z・G・Uについては、備考に記入がない場合は1.0なので、 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U=0.3$ です。

③ 安全性は「I」、「II」、「III」に区分されています。  
内容については、附表の下の注意書きをご確認ください。